

下位登公民館が豆まき

ふくはうち おにもうち

2月3日節分の日、下位登公民館の豆まきが地元の専福寺で行われ、子どもからお年寄りまで約65人が参加しました。

この豆まきは下位登公民館で以前から行われていたものを約12年前から場所を専福寺に移して実施している年中行事。「ふくはうちおにもうち」という題名の紙芝居の読み聞かせのあと、地元婦人会によるぜんざいの振る舞い。子どもたちは、あたたかいぜんざいを何杯もおかわりして冷えた体を温めていました。

最後は、小学5年生2人と今年の年男による豆まき。参加者たちは、階段の上からまかれた豆を我先にと一生懸命拾っていました。



▲「こっちにも投げて」と手を伸ばす参加者たち



▲寄付金を手渡す江本さん

田川科学技術高校が寄付

まちの活性化に役立てて

2月9日、田川科学技術高校の生徒が、昨年11月に行われた文化祭「科技高祭」の売上金約21万円を市に寄付しました。

科技高祭では、3年生の全7クラスがたこ焼きやから揚げ、焼きとりなどの模擬店を出店。昨年度はユニセフに寄付したが、今年は「田川市のまちづくりに役立ててほしい」と市に寄付を決め、生徒会長の江本暁さんが伊藤信勝市長に手渡しました。「以前より商店街のシャッターが目立ち寂しくなった。まちの活性化に少しでも役に立てれば」と江本さん。

寄付を受けた伊藤市長は「汗を流した浄財の寄付に感謝している。ソフト面のまちづくりに使わせてもらいます」と話しました。

佐々木香奈さんが母校を訪問

夢をあきらめないで

2月12日、田川市出身でアイドルユニット「i * Be」の佐々木香奈さんが、母校の鎮西小学校を訪問し、5・6年生約160人を前に、歌手を目指したきっかけなどを話しました。

佐々木さんは、高校までを田川で過ごし東京の大学に進学。進路を考えると、歌手になるという夢があきらめられず、オーディションに挑戦し、昨年9月にデビューを果たしました。「どうしたら歌手になれるか」という児童の質問に「あきらめない限り可能性はある。夢を大切にいろんなことにチャレンジして欲しい」と話しました。

最後に、6年生が卒業式で歌う「エール」という曲を5・6年生の全員と合唱しました。



▲児童の輪の中で一緒に歌う佐々木さん